

トラノハナヒゲ *Rhynchospora brownii* Roem. et Schult.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。暖地の湧水湿地に生育する植物で、愛知県では個体数が少ない。

【形態】

多年生草本。茎は少数が束生し、細くて斜めに伸び、先端は垂れて長さ 50～90cm になる。葉は叢生し、細い線形、幅 1.5～2.5mm、やや硬い。花期は 8～10 月、花序は茎の先端部に 2～3 個やや離れてつき、密に枝分かれした散房状、長さ 3～5cm、幅 2～4cm で、多数の小穂をやや分散してつける。小穂は楕円形、長さ 3～4.5mm、褐色～暗赤褐色、1 個の花がある。果実は倒卵形～ほぼ円形、長さ約 2mm、刺針状花被片は 6 個で果実とほぼ同長、上向きの短刺がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来南部（小林 49482）、新城（小林 54649）、豊川宝飯（芹沢 53591）、豊橋北部（芹沢 81657）、豊橋南部（芹沢 56310）、田原赤羽根（芹沢 56697）、渥美（芹沢 59783）、豊田北西部（芹沢 62624）、半田武豊（小林 33807）。

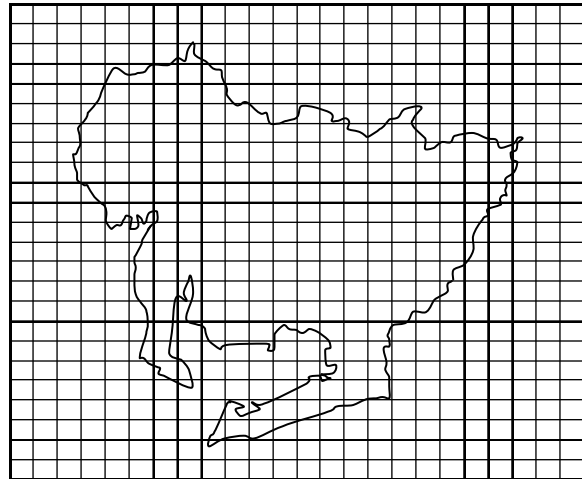
【国内の分布】

本州（静岡県以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部、マレーシア、インド、アフリカ。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

湿地の縁などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

東三河南部には点在するが、西三河と尾張では極めて稀で、各 1 カ所で確認されているにすぎない。どの生育地も小群落で、イヌノハナヒゲのように群生することはない。

【保全上の留意点】

湧水湿地を、水源部の地形を含めて保全することが必要である。西三河と尾張の生育地は、特に保全が必要である。

【特記事項】

イヌノハナヒゲ類に比べ、小穂はやや分散してつき、短くて幅広い。

【関連文献】

保草本 p.253、平草本 p.170。